

毛呂山町初!

オリンピック 銅メダリスト誕生

日本時間8月7日(日)、競泳男子400m個人メドレーに出場した、毛呂山町出身の瀬戸大也選手が、銅メダルを獲得しました。

同種目では、同じ日本代表の萩野公介選手(栃木県小山市出身)が金メダルを獲得。同い年のラバルである2人のメダル獲得に、日本中が感動しました。

また、続いて出場した8月10日(水)の200mバタフライでも5位に入賞。

瀬戸選手は、毛呂山町出身者として初めての、オリンピックメダリストとなりました。

瀬戸大也選手って？

瀬戸選手は、平成6年生まれの22歳。ときわぎ幼稚園、町立泉野小学校、町立毛呂山中学校の卒業生です。

5歳のとき、JSS毛呂山スイミングスクールに通い始め、子どものころから将来の夢は「オリンピックで金メダルをとること」でした。

12歳の時、平山地区の乗り子として秋の流鏝馬に参加。平成27年には初代もろやま町観光大使に就任し、毛呂山町を応援しています。

平成25年、スペインのバルセロナで開催された世界水泳選手権大会に出場。日本人選手として初めて、400m個人メドレーの金メダルを獲得し、話題となりました。



▲平成25年の世界水泳金メダル獲得後の交通安全パレードの様子

皆さま応援ありがとうございました。

今回のリオ五輪では、最高のレースができなかったのですが、東京では最高のレースが出来るよう練習に励みます。

瀬戸大也

750人以上が集まった パブリックビューイング

毛呂山町では、瀬戸選手が出場した400m個人メドレー（8月7日(日)と200mバタフライ（8月10日(水)）の決勝で、パブリックビューイングを開催しました。

400m個人メドレーには約750人、200mバタフライには約600人が集まり、両日とも会場中の人が心をひとつにして、地球の裏側で戦う瀬戸選手を応援しました。

パブリックビューイングで応援隊長を務めた、瀬戸大也選手を応援する会会長の高橋さんは「目標の金メダルではなくて、本人は悔しいと思う。けれど、銅メダルという素晴らしい結果を持って帰ってきてとても嬉しいです。次は4年後の東京オリンピック。それまで、また皆さんで瀬戸選手を応援しましょう」と話し、瀬戸選手の今後の活躍を期待しています。

青いTシャツ姿で 瀬戸選手をお迎え

8月17日(水)、井上町長と有志の皆さんで成田空港に行き、帰国した瀬戸選手を出迎えました。

銅メダルを首にかけて登場した瀬戸選手は、「おめでとう！」の声に笑顔で応えました。



町では、瀬戸選手と調整しながら、お祝いイベントを計画しています。詳細が決まり次第、お知らせします。

その2年後、平成27年にロシアのカザンで開催された世界水泳選手権大会でも、瀬戸選手は400m個人メドレーで優勝し日本人として初の二連覇を成し遂げ、リオデジャネイロオリンピックへの出場が内定しました。

また、平成28年4月に東京辰巳国際水泳場で開催された、日本選手権に出場。リオ五輪の代表選考会を兼ねたこの大会で、瀬戸選手は400m個人メドレーと200mバタフライの2種目でのオリンピック出場が決定しました。

8月のリオ五輪で、瀬戸選手は銅メダルを獲得し、毛呂山町初のオリンピックメダリストになりました。